

## 平成27年度 加茂・南蒲 図工・美術部 活動報告

部長 竹内 理佳

### 1 研究主題

「子どもの絵のよさを見付け、よさを伸ばす指導のあり方」

### 2 研究の概要

5月 1日（金） 事業計画立案・研究テーマ決定

8月26日（火） 研修会

### 3 研究の実際

#### ① 主題設定の理由

「子どもの絵のよさを見付けることに難しさを感じている。」「子どものよさを伸ばすためにどう指導したらよいか悩む。」という部員の悩みを多数聞く。そこで、上記研究主題を設定した。

#### ② 研修日時・場所

8月26日（火） 14時20分～16時45分

加茂市立葵中学校 美術室

#### ③ 講師

附属長岡中学校 鰐渕紀美子先生

#### ④ 研修内容

##### ア) 講話

「よい絵」とは、子どもの思いが伝わる絵であり、自分の思いを形や色で表現してあるものを指す。子どもの絵を見る時には、子どもと向き合って子どもの声を聴き、その本心を探ることが大切である。また、その絵のよさを見付けることは子ども自身のよさを見付けることであり、子どもが自尊感情をもつことにつながる。自尊感情をもてる子どもを育てることが図工教育の目標であるということを学んだ。

##### イ) 実技研修【中学年題材：絵の具の面白さを感じさせる。慣れさせる。】

絵の具を使って吹き流しやスパッタリングなどいろいろな技法を体験したり組み合わせたりと、自由に試しながら作品を完成させた。この題材を理解し、どのように授業を展開するか考えることができた。

##### ウ) 鑑賞研修

過去数年の中越教育美術展の特別賞の作品をお借りし、また部員が指導した子どもの作品を持ち寄って、子どもの絵の見方についてご指導いただいた。その子どもの描きたいことを理解することが重要であり、その上で、その子の思いが表現しきれていないところを支援することの大切さを学んだ。



### 4 成果と課題

子どもの絵のよさを見付けるためには、子どもの思いを汲み取る・思いを聞き取ることが大切である。絵を指導する際には、「その思いを表現できるように技術を教えたり手立てを取ったりして支援することが重要であること」ということを理解することができた。描きたいという思いを子どもにもたせることがよい絵への第一歩である。その思いを一人一人にどのようにもたせていくか、また、思いを汲み取って伸ばしていくためにはどんな言葉かけや支援が必要なのかを、実践を通して考えていくことが今後の課題であると受け止めている。